

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No.246 2017年8月発行

小池人気の都民ファーストが大躍進

都議選で安倍内閣にNO!

= 民進党は総括を巡り、蓮舫代表が辞任表明 =

7月2日深夜、東京都議選の選挙結果に日本中に驚き走りまわった。選挙期間中から苦戦が予想されていたとは云え、驕り高ぶる安倍自民党が現有57議席から半分以下の23議席しか獲れないという歴史的大敗北を喫したのです。その結果、女性初の小池都知事誕生以降、人気が高まっている「都民ファーストの会」が、都議会自民党と決別した公明党などの議席と合わせて、圧倒的な過半数超えの79議席を獲得しました。

その様な中で民進党は、相次ぐ公認候補者の離党騒ぎで自民党批判票を取り込めず、5議席しか獲得できなかった都連会長が引責辞任し、その後蓮舫代表も辞任表明する事態になりました。

国民の注目を浴びた都議選

今回の選挙は東京都の議会選挙という地方選挙にも関わらず、国政選挙と並みに全国民から注目を浴びました。それは「強行採決」を連発する暴走

党派別当選者数

党派	計	女性				立候補者数	現有議席	獲得	前回
		現	元	新	者				
都民ファーストの会	49	17	6	4	39	50	6	-	
民進党	23	1	21	0	2	60	57	59	
公明党	23	3	19	0	4	23	22	23	
自由民主党	19	13	11	0	8	37	17	17	
日本維新の会	5	0	3	1	1	23	7	15	
新進党	1	1	1	0	0	4	3	3	
無所属	0	0	0	0	0	1	0	0	
その他	6	0	0	0	0	17	0	0	
計	127	36	67	6	54	259	126	120	

都議会選挙の結果は

都議会選挙の結果(上の図参照)は、小池知事の「都民ファーストの会」がその後追加公認した6名を加えて55議席を得て、自民党に取って代り

更に、公明党の動向についても注目されました。長い間自民党と蜜月関係を築いてきた公明党が、都政に限っては云え自民党と決別し、小池知事と手を組んで選挙戦を闘うのは初めての事でした。従って自民党が、公明党の選挙協力なしでいくつの議席が獲得できるのか、また第一党の座を守るのかも大変注目されました。

安倍内閣に対して、国会のお膝元の都民がどう評価するかでした。更に「安倍一強」に驕り高ぶる首相や官邸が関与する「森友学園」や「加計学園」問題、豊田議員の「ハゲ発言」、稲田防衛大臣の「自衛隊の政治利用発言」など、相次ぐ不祥事に対する安倍首相の政治姿勢や対応ぶりが問われたのです。

選挙の特徴点

- ① アップした投票率
自民党議員の不祥事と小池都知事人気で、4年前の投票率より7・78%アップし、51・28%の高い投票率になりました。また期日前投票も135万5163人と過去最多で、関心の高さが示されました。
- ② 女性議員は過去最高
立候補した女性は過去最高の65名で、当選したのが36名と過去最高でした。また女性議員の占める割合も前回の19・7%から28・3%へと大幅にアップしました。

都議会の第一党の座を獲得しました。その自民党は、底が抜けた様に現有議席から半分以下の23議席に転落し、歴史的な大敗北を喫しました。

また公明党は、人気の高い小池知事と手を組んで選挙戦を闘い、23名全員が当選を果たし、今後新人と議員経験者の少ない「都民ファースト」に対して、強い影響力を与える立場になりました。

共産党は2議席増の19議席、「生活者ネットワーク」は2名減の1議席でした。

公認候補者の離党が相次いだ民進党は、7名の現職を含めて23名の公認候補者で闘いましたが、議席消滅が危ぶまれる5名の当選にとどまり、自民党同様大惨敗を喫しました。

③ 政策論争は盛り上がりならず

築地市場移転や東京五輪等は争点にならず、「不祥事続きの自民党」か、小池人気の「都民ファースト」かの選択だけが大きな争点になりました。

④ 推薦候補は大苦戦

JR東労組は、東京地本と八王子地本を中心に、9名の推薦候補者を決定して闘いましたが、1名の当選にとどまりました。

自民党に新たな動きが

東京都議会選挙は、その後の自民党に大きな変化をもたらしました。

その一つが都議選後に行われた安倍内閣の支持率調査で、過半数超えの高支持率が、一挙に20%台半ばの危険水域にまで急落したのです。「安倍内閣にNO」の都民の民意は、国民の民意でもあったのです。

それに続いたのが仙台市の市長選挙です。強引な国会運営や「森友学園」「加計学園」疑惑に対する不誠実な対応から一変、「丁寧な説明が足りなかった」と反省のポーズで、公明党と総力で闘ったものの、民進党や共産党が支援する郡 和子候補（JR東労組推薦）に再び敗れてしまったのです。

これらの事態から今自民党内では、鳴りをひそめていた非主流派や不満を持っていた議員などから首相批判の声が出始めました。今後、自民党の

総裁選挙や安倍首相念願の憲法9条改正を巡って、党内の動きが活発化するでしょう。

深刻な民進党

それにしても深刻なのが民進党です。今度の都議選の総括を巡って、「野田幹事長の辞任」から「蓮舫代表の辞任」へと拡大し、党内で混乱が生じています。

今国民が一番求めているのは、自民党の政策と明確に区別され誰にでも分かる政策なのです。党内の幅広い各グループに配慮した曖昧な政策ほど、国民を惑わし失望させるものはありません。徹底した党内論議を通じて、働く者を中心にした安全で安心の国

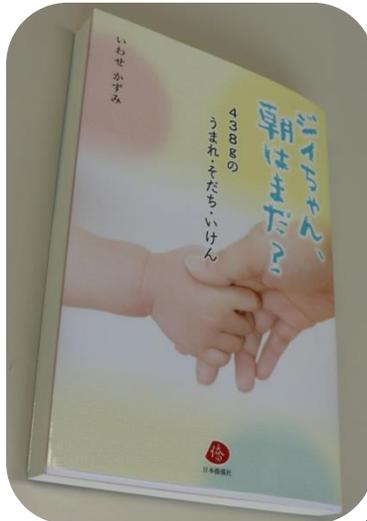
郡山支部OB会の増子さんが小説『ジィちゃん、朝はまだ？』を出版

仙台地本郡山支部OB会の増子一美さん(73歳)(ペンネーム・いわせかずみ)が、長年の創作活動の集大成とも云うべき小説『ジィちゃん、朝はまだ？』を日本僑報社から出版しました。

増子さんは、現役時代から機関士として働きながら文芸活動にも熱心で、様々な賞をいただいております。

この小説『ジィちゃん、朝はまだ？』は、438gの超低出生体重児として生まれた親戚の子と家族の5年間をモデルにして小説にした本です。

郡山支部OB会も現役時代から郡山支部委員長として活躍していた増子一美さんにお世話になっており、各地本OB会にも購読のお願いをしています。



- ◆ 購読希望者は各地本OB会に申し込んで下さい
- ◆ その他の御問い合わせは 増子一美さんまで TEL0248-65-2501 (FAX共用)
- ◆ 価格 本体1,800円+税 (四六版)

安倍内閣を退陣に

民目線に立った政策をつくる事が今一番に求められているのです。

都議選の自民党惨敗に、溜飲を下げた人も大勢いたことでしょう。

しかしここで安心してはいけません。一時的な「反省」のポーズを見せる安倍首相の政治姿勢は、何ら変わってはいません。「森友・加計」の二つの学園疑惑解明からは逃げ続け、憲法9条の改正を成し遂げる決意を改めて表明しています。

本部OB会は、秋の闘いで「反自民」勢力と共に更に安倍自民党内閣を追い詰め、衆院解散・総選挙に向けて奮闘しましょう。

水戸地本OB会の鈴木前会長が厚生労働大臣より表彰状

水戸地本OB会の前会長の鈴木孝雄氏(75歳)が、5月31日茨城県・那珂市の市長室で長年の「民生委員・児童委員」の活動が認められ、厚生労働大臣表彰を受けました。

鈴木さんは、2000年12月に定年退職しました。現役時代は地域の事は全て奥様任せでしたが、退職後は「自分も何か」と思っていた所、民生・児童委員に推薦され2001年12月から活動を始めました。その後15年間、地域の社会福祉活動に貢献されました。

また鈴木さんは、水戸地本OB会の事務局長から2011年8月に会長になり、原発事故で避難したOB会員の安否確認などに奔走しました。

2016年6月に5年間務めた会長職を後輩に託し、12月には民生委員と児童委員も定年で辞め、今後は奥様と一緒に頑張る生きて行くと元気に語っています。



柏崎・中央海岸に“太公望”集う!

=新潟地本長岡支部OB会がキス釣り大会を開催=

6月23日、長岡支部OB会主催のキス釣り大会が開催されました。

この大会は昨年が雨で中止、今年も前日の22日の予定でしたが悪天候のため順延し、翌日の23日に開催となったものです。

早朝6時、柏崎市の中央海岸付近に集まった11名の“太公望”達。「今年はつれないそうだ」「二年ぶりに投げる。キスよ来い」と、不安と期待が入り混じった中で砂浜に向かい大会が開始されました。

雨の心配もなく「絶好の釣り日和」ではありましたが、「OB会に恐れをなし、遠海に逃げたか？」釣果はイマイチでした。



読めるかな?長岡の太公望たち

タイムアップ後は、釣った成果(キス、カレイ)を持ち寄り、釣り談義に花を咲かせ、楽しい一日を過ごしました。

(新潟地本OB会)

(水戸地本OB会)